

モデル経営体名：有限会社中条農産サービス（熊谷市）

展開：県が育成した米など品種の特性に対応した展開

経営概要 190ha（水稲55ha、飼料用米23ha、小麦112ha、ねぎ0.75ha）
うち実証面積 水稲6.9ha（平均63a）

- 導入技術①水田水管理省力化システム・積水化学工業（株）・水まわりくん（遠隔操作型）
 ②水稲向け水管理支援システム・ベジタリア（株）・PaddyWatch PW-2400
 ③環境モニタリングシステム・ベジタリア（株）・FieldServer FS-2300
 ④IoTカメラモニタリングシステム・ベジタリア（株）・FieldCam FC-1000

①



②



③



④



実証の状況

①実証の目的：

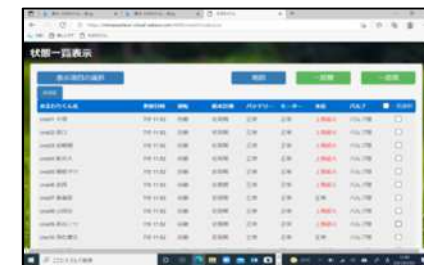
- ・多機能型自動給水栓を活用した水管理の自動化及び遠隔操作技術により、「水管理の省力化」、「水稲の高品質化」、「農業用水の有効利用」を実証する。
- ・環境測定装置による気温・地温・水温・水位データ、IoTカメラによる稲の生長を画像で自動記録したデータ、気象データ等を生育データとして集積し、高温等の異常気象条件においても「高品質安定栽培」を可能とする技術のマニュアル化をすすめ、地域の農業者が導入しやすいようにIT技術による「見える化」を実証する。

②実証状況：（慣行水田と比較）

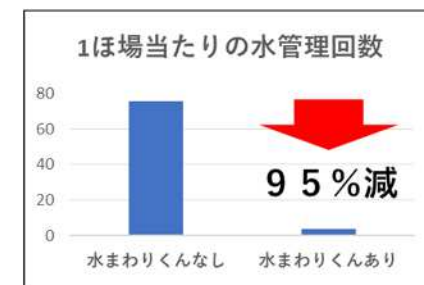
- ・「水管理の省力化」水管理の回数を**95%**削減。
- ・「水稲の高品質化」登熟期の気温が高温障害の発生する状況ではなかった。
- ・「農業用水の有効利用」10aあたり給水量については現在分析中。

③モデル経営体の感想：

- ・水稲の生育状況や機器の正常稼働確認等のため水管理ルート上で眺める程度で、水管理のためにほ場を訪れる回数が大幅に減少した。
- ・水まわりくんを設置したほ場の水管理は安心できる。
- ・機器の操作性は簡単でデータも見やすい。
- ・機器の価格が高額なため、導入を増やす場合には費用対効果をしっかり確認する必要がある。



水まわりくん稼働状況



水管理の省力化について